

## 平成30年度「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練に統括 DMAT として参加しました (2018/6/12)

テーマ：「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練、DMAT 調整本部

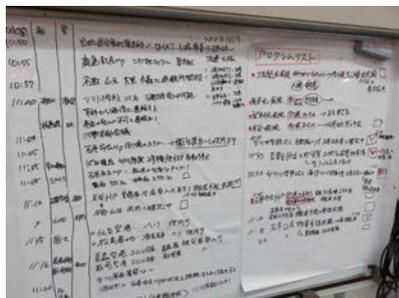
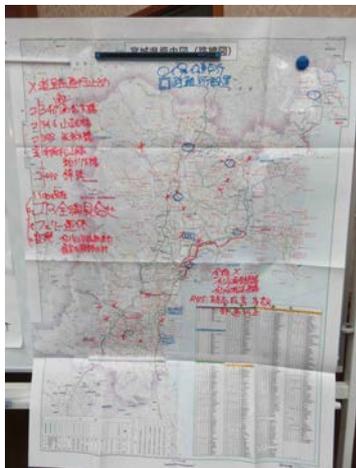
場所：宮城県庁（宮城県仙台市）

2018年6月12日(火)、宮城県仙台市の宮城県庁において平成30年度「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練が実施され、佐々木宏之助教（災害医学研究部門災害医療国際協力学分野）が宮城県庁内に設置されたDMAT調整本部の副本部長として参加しました。

「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練は、昭和53年の「宮城県沖地震」を契機に、昭和54年の「県民防災の日」（6月12日）から、県内各地域において大規模地震災害の発生に備え、地震災害に対する防災体制の確立と防災意識の高揚を図ることを目的として、県内各地域で防災関係機関と地域住民が一体となって各種の訓練が実施されています。宮城県においては、災害対策本部設置運用訓練、初動派遣・通信訓練等を実施しています。

当日の訓練で、佐々木助教はDMAT調整本部副本部長として本部長、災害医療コーディネーター、県庁医療政策課職員、日本赤十字社職員等と協力・連携しながら災害医療本部の運営にあたりました。5月に統括DMATとなったばかりの佐々木助教は初参加の訓練に戸惑いながらも、熊本地震での派遣経験を思い出しながら活動しました。午前中は発災直後からの災害医療本部立ち上げの初動対応訓練、午後からは発災48時間後を想定した病院支援、患者搬送支援訓練などを行いました。

DMAT調整本部は発災直後から病院被災状況の把握を開始し、より被害の甚大な地域・医療機関に拠点を定め人的・物的資源を投入します。発災直後は回線状況も悪く病院の被害状況もなかなか集まらず、本部は焦燥感に包まれます。広域災害の被災状況を迅速に把握できる仕組みや他機関とも情報共有を容易にできるツール、また災害時にも途絶・輻輳しない通信手段の重要性を改めて認識しました。



（上左：訓練開始前の静かな災害対策本部、上中：発災直後、災害医療本部の「島」でDMAT、県庁職員、日赤職員が協働して情報収集にあたる、上右：資源配分について本部長と相談する佐々木助教、下左：道路通行止め情報などを書き込んだ県内地図、下右：クロノロとto do list。未解決案件をクロノロからリストに拾い上げ、対応に漏れがないようにする）